

図18.17② 環状肉芽腫 (granuloma annulare)  
a : 穿孔型環状肉芽腫. b : 皮下型環状肉芽腫.

### 治療

自然治癒しやすく，皮膚生検後にその病変部位が退縮することも多い．局所治療としてはステロイド外用，PUVA療法，凍結療法など．糖尿病を合併している場合はその治療を行う．

### 3. 環状弾性線維融解性巨細胞肉芽腫 annular elastolytic giant cell granuloma ; AEGCG

同義語：光線性肉芽腫 (actinic granuloma)，エラストファジック巨細胞性肉芽腫 (elastophagic giant cell granuloma)

変性した弾性線維（日光性弾力線維症）を貪食する巨細胞が中心となった肉芽腫性病変である．中年女性に好発し，辺縁が隆起し中央が脱色した大型の環状局面として，顔面や頸部，四肢など露出部に出現する（図 18.19）．あたかも環状紅斑のようにみえることがある．自然消退することが多い．環状肉芽腫の亜型とする考え方が有力である．

### 4. Melkersson-Rosenthal 症候群 Melkersson-Rosenthal syndrome

類義語：肉芽腫性口唇炎 (cheilitis granulomatosa)

### 症状

20歳代に好発し，口唇の腫脹，皸裂舌，顔面神経麻痺を3主徴とする．上記すべてが出現するものを Melkersson-Rosenthal 症候群というが，口唇の腫脹のみを訴える症例も多く，肉芽腫性口唇炎という．

**口唇の腫脹**：口唇（とくに上口唇）の突然の腫脹がみられる（図 18.20）．頬粘膜の腫脹を伴うこともある．これらの腫脹に疼痛などの自覚症状はなく，数時間から数日間持続する．再発を繰

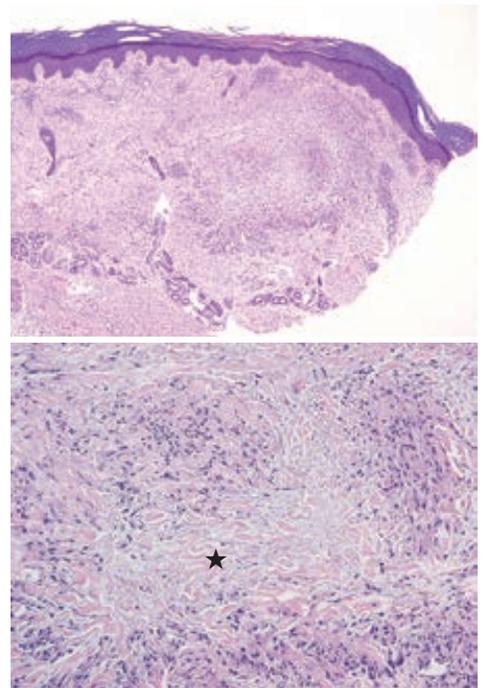


図 18.18 環状肉芽腫の病理組織像  
中心部に変性した膠原線維とムチン沈着を認め（★印），その周囲に柵状の類上皮細胞肉芽腫を認める．